意識障害患者に対する嗅覚および味覚刺激の効果

３階西病棟
○ 西村 八栄　　小野 あゆみ　　小松 誓子
脳神経外科
山田 昌興　　清水 惠司

【背景】
意識障害患者に対する刺激療法は重要である。しかし、急性期病棟においては看護師の日常業務が多く、刺激療法に費やす時間は非常に乏しいのが現状である。今回、日常行うケアの１つに、患者に刺激を与える工夫を試みたので報告する。

【方法】
対象患者は２例であり、日常施行している口腔ケアに加え、20倍希釈柚子水を含んだガーゼで１日２回の口腔内清拭を１ヶ月間施行した。評価は開始前から１週間ごとに行い、口腔内環境（舌苔、唾液分泌量、カンジダ量）の評価に加え、意識障害治療研究会の反応スケールを用いてスコアをつけた。

【結果】
症例１は78才男性で、高血圧性脳内出血によりＪＣＳ 200点で搬送された。入院後、気管切開し人工呼吸器装着状態となったが、２ヶ月を経ても呼吸器から離脱できずにいた。口腔および気管内吸引にてもほとんど反応を示さなかったが、柚子ガーゼにて口腔内清拭を行うと咀嚼運動が認められ、嚥下運動まで出現し、易開眼となり人工呼吸器から離脱した。唾液分泌量は増加しなかったが、舌苔やカンジダの増殖もなく、反応スコアも３点から８点まで向上した。症例２は65才女性であり、クモ膜下出血の後の脳血管攣縮により、遷延性意識障害を呈していた。反応に乏しい状態であったが、柚子ガーゼ口腔内清拭にて自ら開口するようになり、失語症を認めるものの発語が多くみられ、反応スコアも８点から16点に向上した。本例でも唾液分泌量の増加は認められなかった。

【結論】
口腔内清拭は日常業務の中でも簡便に行え、そのケアに柚子を用いての嗅覚および味覚刺激は、唾液分泌促進効果はないが、意識障害患者の反応性向上に役立ったと結論した。

（平成18年7月13日・14日　第15回日本意識障害学会（大阪）にて口頭発表）